

# 歴史（居木神社）

創建に関しては明らかではありませんが、江戸時代初期には目黒川のゆるぎ橋（現在の居木橋）付近にあったといわれています。川の近くにあったため風水害の被害を受けやすく、村民らによって現在の地に遷座され、それと同時に神社付近に人々も移り住み、新しい村づくりがなされたといわれています。

言い伝えによると当初は「雉子ノ宮」と称し、明治5年（1872年）に現在の居木神社となり、昭和5年（1930年）に社殿が新築されましたが、1945年（昭和20年）に第二次世界大戦により焼失。現在の社殿は昭和53年（1978年）に再建されました。境内にある「富士塚」はしながわ百景に選ばれ、境内末社の「巖島神社」は品川区指定有形文化財に指定されています。

芳水小学校校歌にもある「常盤なる居木の森や」高台地に拝するに至っています。

毎年8月に行われる「例大祭」では、宮神輿の渡御、氏子町会の全ての子ども神輿が一同に会するなど大変な賑わいをみせています。また、7月には氏子町会ははじめ学校関係者などによる模擬店が出される「納涼祭」が境内で開催され、フィナーレには打ち上げ花火が行われるなど地域の名物イベントになっています。

